

所信

田口 正人

はじめに

2008年に起きたリーマンショック。そして2011年に発災した東日本大震災により、日本は今、非常事態ともいえる危機を迎えています。各種経済指標も最悪期からは向上し、震災から2年が経った今日、復興の足音も聞こえはじめ、国民にも明るい兆しが見えつつあるように感じます。しかし、それは実態とは乖離されており、予断を許さない状況であることには変わりはなく、まだまだ危機的状況から脱することが出来ていません。また、地方で抱える様々な問題もほとんど改善されておらず、これからは私たちは危機感を持ってその難題に取りくまなくてはなりません。日本はこれまで数々の危機から脱してきました。太平洋戦争以後の壊滅的な状況から、経済大国として奇跡的に回復、そして長い飽和期を経験し、東日本大震災の発生。まさに今は戦後ならぬ災後として、日本を、そして自らが住む地域をどう立て直すかが大変に重要な使命であります。そんな時代にかくして責任世代として生きている我々は、未来を担う子供たちのために、今こそ、社会と積極的に関わり行動するべきなのです。地域住民が地域愛あふれ、強い絆で結ばれ、そして、安定した生活環境の整った、「つよいあきた」を創造するために、動きだそうではありませんか。

あきたの「たから」を活用し、つよいあきたを創造しよう

2011年度から始まった秋田県の優れた発酵文化に焦点をあてた「秋田醸しまつり」は地域住民の認知度も高く、回を重ねるごとに影響力を増しています。また、県内のみならず県外からの参加者も増加傾向にあり、県内外に広く発信され、誇り溢れるあきたへの想いの醸成に寄与してきました。さらにあきたの地域力を向上させるためには「たから」を発信するとともに、活用することを念頭において事業を行う必要があると考えます。発信から活用へ。「たから」を活用して、「つよいあきた」の創造を目指します。

循環型社会の確立を目指し、風光明媚なあきたを未来に遺そう

地域住民が環境問題に取り組むようになって何年が経つでしょうか。秋田青年会議所も環境問題に取り組み、様々な事業を行ってきました。環境に対する地域住民の認識も深まり、環境運動は浸透しつつありますが、環境運動に終わりはないと考えます。あきたを愛する我々は、この風光明媚なあきたを、次世代を担うこどもたちに遺すために、これからも動き続かなければいけません。そこで、循環型社会の確立を目指し、地域環境への負担を軽減させることにより、風光明媚なあきたを未来に遺します。

すばらしきあきたを知っていただくために

あきたのすばらしいところは、数多くあります。ただ、そのすばらしさをなかなか認知していただく場が少ないと感じます。最近、海外メディアや映画撮影などにより、このあ

きたも多少なりともスポットがあたっていますが、その受け入れ体制は整っておらず、早急に体制を確立しなければ、チャンスを逃す可能性もあります。そこで、すばらしきあきたの再発見を進めるとともに、ホスピタリティ溢れる受け入れ体制の確立を目指し、すばらしきあきたをいつでも発信できる体制構築を目指します。

社会を牽引できる次世代リーダーの育成

日本は幾多の危機を乗り越えて今があります。その危機においては、いわゆる責任世代と言われる我々と同じ年代の人々が一生懸命その役目を担ってきました。また、そのような時代にはカリスマと呼ばれる素晴らしいリーダーが誕生しました。このあきたにおいても、今後も様々な危機がおとずれると思いますが、明るい豊かな社会構築を持続的に目指すためには、社会を牽引できる次世代リーダーの誕生が必要だと考えます。志高い青年を次世代リーダーとして育成することにより、未来永劫続く輝くあきたの創造を目指します。

公益社団法人としてのガバナンスの更なる強化を目指して

今後とも、我々の住むこのあきたで運動を展開するためには、さらにガバナンスを強化して、今以上に地域住民から信頼される公益社団法人秋田青年会議所であり続ける必要があります。透明性の高い組織運営を行うことにより、地域からの信頼を増し、会員が心置きなく運動ができるようにガバナンスの更なる強化に取り組みます。

結びに

我々の心から離れない三信条「奉仕・修練・友情」。これは青年会議所活動・運動にとって欠かせないものであります。この三信条はどれも大事ですが、我々はやはり奉仕の精神を第一にするべきではないでしょうか。我々の住むこの地域のことを一番に考え運動すること。そして、その運動を遂行するための様々な困難を克服すること。そして、それを成し遂げるためには、信頼できるすばらしい仲間が必要なこと。青年会議所に脈々と受け継がれてきた三信条を今一度胸に強く刻み込み、活動・運動して参ります。